

2023 - 2032

1人ひとりの匠たくみが活躍する村

第6期 音威子府村総合計画

おといなっぷ物語



第6期 音威子府村総合計画

2023 - 2032

たくみ

1人ひとりの匠が活躍する村

第6期 音威子府村総合計画

おといなっぷ物語



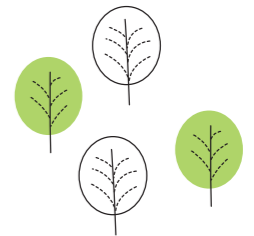
北海道で1番小さな村 音威子府村

ほかのまちと同じように 人口が減ってきています

小さな村ならではの “できること” ってなんだろう？

村民みんなで “10年後の未来” を想像してみました

そうだ！
小さな村だからこそ
一人ひとりが活躍する姿
「一人二役」



私たちは 未来 に向かって歩み始めました

ここから
『おといねっふ物語』
がはじまります



目 次

2032年おといねっぶ物語…… 4

村民みんなで考えた10年後、2032年の未来の姿が「おといねっぶ物語」です。

村民一人ひとり、子どもから大人までが考えた、村のすてきなところや魅力、課題を共有しあいながら、10年後の村の姿を描きました。

総合計画………15

村の将来像の実現に向けた「基本目標」と「基本計画」を示しています。

現在の日本を取り巻く社会情勢や村の現況を踏まえ、3つの「基本目標」を定めるとともに、今後10年間で取り組むべき施策の柱と主要な施策の内容を「基本計画」として整理しています。



2032年 音威子府村。

自然に囲まれた小さな村は

ちょっと不便なこともあるけれど

小さな村にしかない素敵な暮らしがあります。

2032年 おといなっぷ物語

令和14年

2032年の音威子府村には
こんな人たちが暮らしています

A さん
28歳

アウトドアの匠

関連する基本目標

1 2 3

私はアウトドア好きで、仕事とは別に趣味を活かし、夏は森林ガイド、冬はウィンタースポーツを教えています。

村の宝である天塩川や森林資源は昔から変わらず、豊かな自然が保たれているのも魅力です。環境に対するさまざまな取り組みもあり、ごみのことやエネルギーに関する考えも変わりました。

私が携わる自然体験などを通じて、子どもたちが村のことをもっと好きになってもらえれば嬉しいなと思っています。

関連する施策のイメージ

森林や河川の維持・整備
森林資源・天然林等の多面的活用
着地型体験観光の造成
村の資源を活かした教育の推進 など

B さん
37歳

魅力発信の匠

関連する基本目標

2 3

村に暮らす皆さんとの交流から村のことが好きになり、数年前に移住して小さなカフェを開いています。村の方に教えてもらったパン作りがきっかけで、いまでは作ったものをネット販売しながら、大好きな村の風景や出来事も SNS で発信しています。

この間は、私の SNS を見て来てくれたお客さんがいて、村の方と一緒に楽しくお話ししました。村のファンが少しでも増えてくれたらな、と思います。

関連する施策のイメージ

空き家や体験住宅等を活用した移住の促進
SNS等を活用した村づくり情報の広報
第一次産業のブランド化、6次産業化支援
産学官金の連携により副業・兼業等人材活用できる体制づくり など

C さん
45歳

地域コミュニティの匠

関連する基本目標

2 3

自宅で DIY をするのが昔からの趣味で、たまたま仲間に誘われたことがきっかけで、村の空きスペースを DIY して集いの場を作りました。

休みの日にはそこのんびり過ごすのが好きなのですが、子どもたちや村の方々も遊びに来てくれて、普段話す機会のない方とおしゃべりするのも楽しいなと感じています。

関連する施策のイメージ

村民同士による多世代交流の促進の場づくり
スポーツを楽しめる環境・機会の整備、交流促進 など

D さん
27歳

二地域居住の匠

関連する基本目標

1 2 3

子どもの頃からの夢をかなえるために北海道外で就職しましたが、いまは音威子府と行き来しながら仕事をしています。仕事や居住環境も不便はなく、困ったことがあれば近所の方が助けてくれるのも、小さな村ならではの魅力です。

村には隠れた魅力や素敵な人がたくさんで、日々刺激をもらっています。村立高校を卒業したアーティストが村内外に居るのも魅力的で、いまは仕事のノウハウを活かして、創作活動や創作拠点の支援をしています。

関連する施策のイメージ

新たな働き方の導入支援および環境整備
多様なライフスタイルに合わせた移住交流の推進
関係人口創出を通じた地域内外の交流促進 など

E さん
67歳

彩りの匠

関連する基本目標

1 3

私は花が好きで、ガーデニングが趣味です。ご近所さんや子どもたちが「お庭がきれいですね」と言ってくれるのが嬉しくて、小さな庭ですが毎日楽しく花の手入れをしています。

この間は、子どもたちとお菓子作りをしておしゃべりしました。ちょっとしたことでも喜んでもらえるのは、嬉しいですね。

関連する施策のイメージ

山林保全による景観形成
関係人口創出を通じた地域内外の交流促進 など

村の将来像



森とともに 一人ひとりの匠が活躍する村

音威子府村には
豊かな自然とゆったりと流れる時間のなか
いつでもあたたかい心で支えあう人たちがいます。

匠（たくみ）とは
特別な技術や知識が必要なわけではありません。

私たちが考える「匠が活躍する村」は
村民一人ひとりが わくわく することや
こうなりたいという気持ち 生き活きる場をもち
「新しい未来」に踏み出す姿です。

この将来像は
先人から受け継がれてきた想いである
「森」とともに歩み続ける村づくりから描きました。

小さな村に暮らす一人ひとりが
一人二役で活躍し
互いに支えあうことにより
この村はより一層かけがえのない村になります。



未来の音威子府村を みんなで考えました

「2032年の音威子府村がこうなっているといいな。」

アンケートやワークショップを通じて
村民一人ひとりが思う「未来の音威子府村の姿」を
共有しあい みんなで考えました。

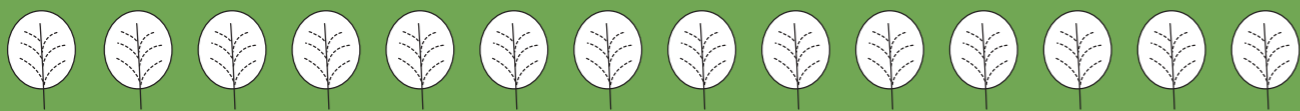
「大切な豊かな自然」

「一人二役」

「一人ひとりが活躍する」などなど……

そこには 子どもから大人まで
音威子府村の村民として大切にしたい生き方がありました。

私たちは 未来に向かってありたい姿を描き
実現に向けて歩み始めました。



村民一人ひとり未来に向けた声を集めました

●村民アンケート調査

【実施期間】令和4(2022)年7月～8月

【対象者】本村在住の18歳以上の住民基本台帳に登録されている村民

●高校生アンケート調査

【実施期間】令和4(2022)年7月

【対象者】北海道おといねっぶ美術工芸高等学校の生徒



安心して
生き活きと
過ごせる村

動画などを
制作しもっと
村をPR

村民同士の
交流の場が増える

多様な働き方や
暮らし方を
実現できる
環境づくり

村民みんなでわくわくする未来を考えました

●村民ワークショップ

【開催日時】

1回目:令和4(2022)年8月27日(土)

2回目:令和4(2022)年9月19日(月)

3回目:令和5(2023)年1月28日(土)

4回目:令和5(2023)年3月18日(土)

【テーマ】

1回目:音威子府村の魅力と課題、10年後の理想の村の姿

2回目:理想の村にするために何が必要か自分たちができることを考える

3回目:村民が集まる場と仕組みのあり方を考える

4回目:新年度にみんなでやってみたいこと

一人が何役かを
担う村づくり

村外に出ても
戻ってきたいと思える
村づくり

村民みんなが
集える
場づくり

アートが
あふれている

村民みんなの
仲がいい

新しい暮らしが
できる村づくり

小さな村のやさしさを守る、
プレミアム化する

村全体をホテルに
みたくて村づくり



●小学生ワークショップ

【開催日】令和4(2022)年8月25日(木)

【参加者数】小学生12名

【テーマ】村の魅力、PRしたいところを考えよう



●中学生ワークショップ

【開催日】令和4(2022)年8月25日(木)

【参加者数】中学生12名

【テーマ】10年後の音威子府村の理想の姿について考えよう

おといねっぷの素敵なおと高

私たちが暮らす村は、どんなところが素敵なのだろう…？有名な観光名所だけでなく、身近な場所や人、自然、歴史など、視点を変えてみると、たくさんの魅力があることを再発見しました。

「おと高」は村の宝

村立高校、北海道おといねっぷ美術工芸高等学校（通称おと高）は、村民が選んだ地域資源の中で、最も魅力あるものとしてあげられました。木工芸、美術を学ぶことができる学校そのものだけでなく、全国各地から訪れ、創造性豊かに制作活動に励む生徒たちは、小さな村にとって大切な財産です。

豊かな自然、森林

村全体が山々に囲まれ、北海道大学中川研究林などの森林資源に恵まれています。森林や自然環境は、村での暮らしや生活文化、産業、歴史、おと高とも結びつきが強く、村の基礎となっている資源の一つです。

村の農業と景観

村の主産業である「農業」は、そばの作付をはじめ、フルーツトマトやホワイトアスパラなども栽培されています。農業が営まれていることで見ることができる景色、そば畑が広がる風景は村民からもおすすめで、さらには夜の真っ暗な中で見る星空は、知る人ぞ知る魅力の一つです。

アート&クラフト

村を代表する彫刻家「砂澤ビッキ」のアトリエを改修したエコミュージアムや、おと高、村内各所に展示されている彫刻・絵画作品など、多様な「芸術」も村の魅力の一つです。

村を縦断する天塩川

市街地の近くを流れる天塩川の風景は、子どもたちからもおすすめのポイント。築堤や橋の上からの眺めは、四季によっても表情が変わり、釣りやカヌーを楽しむ人もいます。北海道で二番目に長い河川で、北海道遺産にも選定されています。

村に暮らす人々

小さな村だからこそ、村民同士が顔見知り、子どもたちにとっても、人と人との仲の良さ自体が、村の素敵なおと高の一つだと感じています。

雪とともに暮らす

国内有数の豪雪地帯・音威子府村は、積雪量2mを超える雪が毎シーズン降り積もります。アルペンスキー（音威富士スキー場）などのウィンタースポーツも行われ、クロスカンリースキーの全日本大会も開催される村です。

まちなかのいつもの風景

いつも生活をしている市街地や家の周りには、ガーデニングできれいに手入れされた花畑があったり、少し歩くと木々の間から村が見渡せる神社、夕陽がきれいに映り込む天塩川、そば畑もあります。暮らしの身近にあるものも、一人ひとりにとっては「すてき」だと感じるものがたくさんあり、災害が比較的少なく静かなところも、村の良いところです。

村を楽しめるおすすめ施設

村民が楽しむのはもちろん、ほかの人たちにもおすすめしたい場所として、天塩川温泉や道の駅などの観光施設があります。日帰り入浴や宿泊もできる温泉、国道の分岐点にある道の駅では、村の特産品も購入できます。

交通分岐点、小さな村の駅

国道や道道の分岐点、かつては鉄道要衝地でもあり、いまも多くの人やモノが行き来する地域です。音威子府駅は、特急列車が停車する駅がある自治体の中で一番人口が少ない村の駅で、村民や観光客、鉄道ファンも多く立ち寄ります。



みんなの力をあわせてやってみよう！

ワークショップでは「10年後の理想の姿を叶えるために必要なこと」や「自分たちができること」をテーマにアイデアを出し合い、自分たちでもチャレンジできる企画やアイデアについて話し合ってみました。



1: みんなが集まる機会、空間づくり

- ◆「多世代が気軽に交流できる機会や場」を増やすためには、どんなことができる…？
- ★村内の空き家や公共施設の空き空間など、いまある資源を活用して、カフェやバルのような誰でも集いやすい機会・場を作りたいね！
- ★村民一人ひとりの得意なことを持ち寄って、例えばパン作り教室をしたり、高校生が絵や木工を教えたりする中から、新しい交流が生まれたいね！



2: 気軽に一人二役で活躍できる仕組み

- ◆小さな村で支えあっていくためには、一人ひとりが「自分の好きなこと」「得意なこと」を活かして活躍できる場があるといいよね…？
- ★趣味を活かした自然ガイドのようなことはもちろん、特別な技がなくてもできるちょっとしたお手伝いのような、気軽なことからできる機会や仕組みがあるといいね！
- ★どんな形であれば、無理なく気軽に一人二役で活躍できるのか、どんな活躍の仕方があるのか、さらにみんなで考え、話し合うことも大切だね！



3: 地域の良さを活かした村自慢の一品づくり

- ◆村の良さでもある自然環境や産業を活かしながら、いろんな人に紹介したくなる村の自慢の一品、「音威子府ブランド」を生み出すには、なにができるだろうか…？
- ★玄そば、トマト、ホワイトアスパラ、牛乳などの農畜産物の良さを発信したり、加工して付加価値向上やブランド化で、より魅力的にすることもできそうだね！
- ★木工品販売はもちろん、村ゆかりの作家と連携して取り組むこともできそうだね！
- ★観光施設での販売だけではなく、地域外での対面販売やネット販売もいいね！
- ★みんなで一品ずつアイデアを考えるだけでも楽しそうだね！



4: 村を盛り上げる地域外のファンづくり

- ◆おと高を卒業した後も、なにかの形で高校や村と関わったり応援をしたいと思っているけれど、どんなことができるだろうか…？
- ★村に住んでいなくても、移住・定住できなくても、気軽に関わりを持てる形を作ることができるといいよね！
- ★おと高卒業生に限らず、村に住んでいたことがある人、村を知ってくれている人、村のことが好きな人が、村の魅力や楽しさを共有できる場があれば、より応援してくれる人も増えるよね！
- ★地域外の人が村の様子を知ることができたり、逆に村民がおと高卒業生の活躍の様子も知ることができれば、お互いに協力したり応援したり、距離は離れていてもつながりあうことができそうだね！



5: 村民一人ひとりが村のPR大使になろう

- ◆村には多くの資源があって、隠れた魅力もたくさんあるけれど、もっと多くの人に知ってもらうにはなにができるだろうか…？
- ★村の広報紙やウェブサイトはもちろん、個々人でも活用しているSNSなどから、みんなが少しずつ村の魅力を発信するだけでも、効果がありそうだね！
- ★村民一人ひとりが、まずは出来る形で村の良さや魅力を誰かに伝えていけば、それだけでもPRになりそうだね！

2032年 音威子府村。

自然に囲まれた小さな村は、
ちょっと不便なこともあるけれど、
小さな村にしかない素敵な暮らしがあります。

「おといねっぷ物語」を創り上げる主役は、
村民一人ひとりです。

総合計画

総合計画とは

1. 総合計画策定の趣旨

音威子府村では、平成25(2013)年度に「第5期音威子府村総合計画」(計画期間:平成25(2013)～令和4(2022)年度)を策定し、村づくりの実践目標を「森と水と人が織りなす匠の里・おといねっぶ」と定め、村民と行政が連携して取り組みを進めてきました。

また、令和2(2020)年度には、「第2期音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略」(計画期間:令和2(2020)～令和6(2024)年度)を策定し、人口減少に伴う地域課題に対応する、より具体的な取り組みを進めてきました。

この間、本村においては、人口減少と少子高齢化が依然として進行しており、さらには全国各地における大規模な自然災害の発生、世界的な感染症の大流行など、想定しきれない危機、社会・経済情勢の大きな変化がありました。

今後、さまざまな変化や危機に対応しながら、将来にわたって持続可能な自立した音威子府村をつくっていくために、令和5(2023)年度から令和14(2032)年度までの10年を計画期間とする「第6期音威子府村総合計画」を策定します。

2. 計画の位置付け

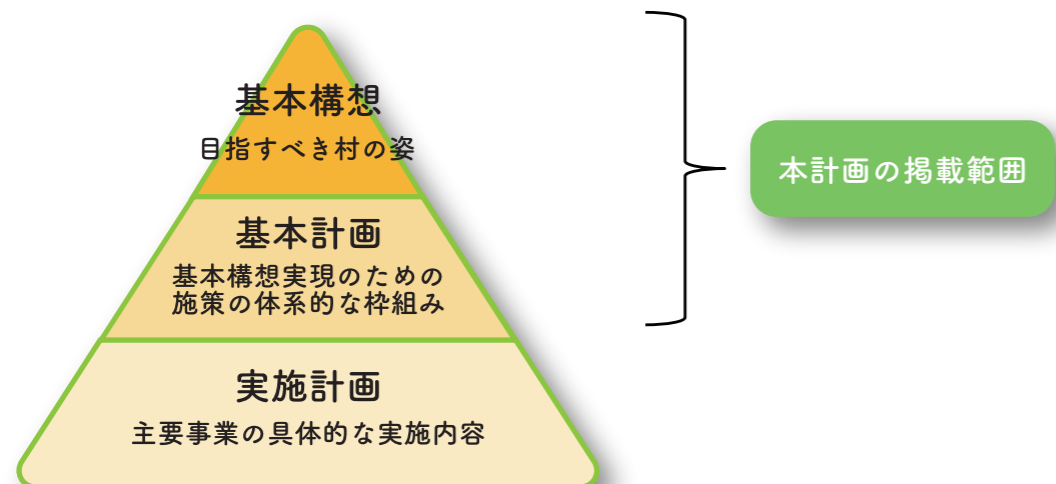
本計画は、本村政における最上位計画として位置付けるものです。

本計画との整合性を図りながら、分野別の基本計画を策定・改定します。

3. 計画の構成と期間

(1) 計画の構成

総合計画は、大きく「基本構想」「基本計画」によって構成され、さらにこの計画に基づき、「実施計画」により事業が実施されます。



■基本構想

基本構想は、行政運営を総合的かつ計画的に行う指針となるもので、本村が目指すべき「将来像」と、その実現のための村づくりの「基本目標」を掲げ、体系的に示すものです。

■基本計画

基本構想で掲げた「将来像」および村づくりの「基本目標」を実現するために、取り組むべき施策を体系的に示すものです。

■実施計画

「基本計画」に示した主な施策内容を明らかにし、本村における毎年度の予算編成・組織機構・人事計画などの運営方針となるものです。

「基本計画」に掲げられた主な施策の実効性を担保するため、財政計画との整合性を図りながら、具体的な事業内容・財源・実施時期などを示します。

計画期間は3年間とし、毎年度の事業の評価・検証を行いながら見直しをするPDCAサイクル^{※1}により、計画全体の効果的・効率的な推進に努めます。

(2) 計画の期間

基本構想及び基本計画の計画期間は、令和5(2023)年度から令和14(2032)年度の10年間とします。

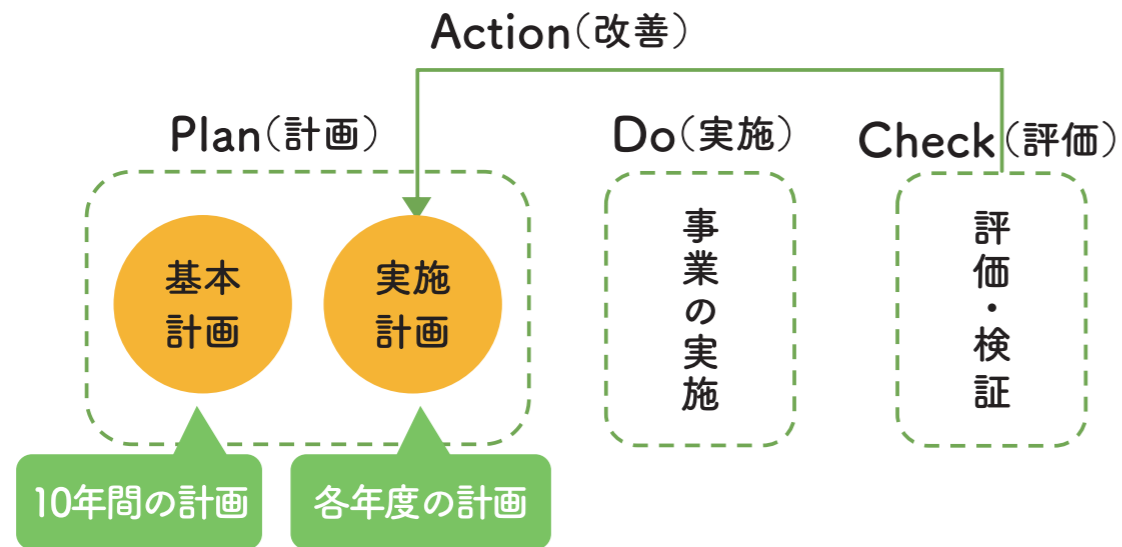
基本計画においては、社会経済情勢や財政状況の変化に合わせ、必要に応じて見直しを図ります。

実施計画の期間は3ヶ年とし、ローリング方式により毎年度見直しを行います。

年度	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)	令和12年度 (2030年度)	令和13年度 (2031年度)	令和14年度 (2032年度)
基本構想	10ヶ年									
基本計画	10ヶ年 ※必要に応じて見直し(おおむね5ヶ年程度ごと)									
実施計画	3ヶ年			3ヶ年			3ヶ年			毎年度改訂(ローリング)
	3ヶ年			3ヶ年			3ヶ年			
	3ヶ年			3ヶ年			3ヶ年			

4. 総合計画の推進体制

計画の実効性・即応性を高めるため、計画(企画)・実施・評価・改善のPDCAサイクルを通じた評価検証を毎年度実施します。庁内で各基本施策の評価・検証を行い、より効果的・効率的な推進に努めます。



※1 PDCAサイクル—— Plan(計画)・Do(実施)・Check(評価)・Action(改善)の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで継続的な改善を推進するマネジメント手法

音威子府村の概要

これからの村づくりにおいて、本村の現状や特筆すべき特性は次のとおりです。

北海道北部に位置

東西22.2km、南北18.6km、総面積275.63平方kmを有し、北海道北部、上川管内の北部に位置します。

北海道命名の地

幕末の探検家である松浦武四郎がアイヌとの関わりから、北海道の名の元となった「北加伊道」という名を発想したと言われています。

森に囲まれた寒冷地域

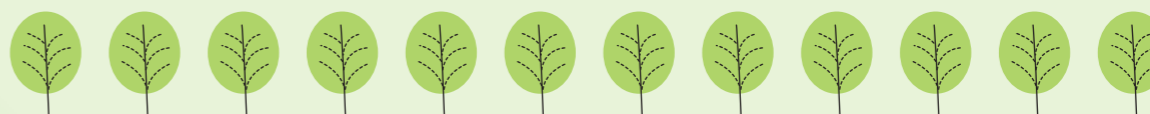
村の中央を天塩川が貫流し、河川沿いに平坦地が形成されています。海洋性気候に属す盆地的地形で寒暖の差が激しいため、年間平均気温が6度程度と低く、北海道でも寒冷地に属します。道内でも有数の豪雪地帯で降雪量は12mを超えることもあります。

総面積の約8割が森林

森林面積は23,672haであり、主に北海道有林および北海道大学中川研究林が多くを占めています。北大研究林では7,679haと広大な面積を有しており、古くからの森林を保存する原生保存林や、森林や動植物などの調査研究が行われるなど、村にとっての貴重な資源の一つです。

道北地方の交通要衝地

かつて鉄道の街・国鉄の街と呼ばれ、宗谷本線と旧天北線が分岐する鉄道要衝地として発展してきた歴史があります。現在では、特急列車が停車する自治体で一番小さな村であるとともに、道北地方の国道・道路網の分岐点で、多くの人とモノが行き来する地域でもあります。



北海道で一番人口が少ない村

昭和25(1950)年の4,185人をピークに人口は減少傾向にあり、令和2(2020)年の国勢調査では706人となっています。しかしながら高校生の人口割合が高いことが特徴で、高齢化率は30.4%です。この特性を活かした地域づくりの取り組みが進められています。

北海道唯一の工芸科がある村立高校

木材工芸を中心に美術工芸を学ぶことができる、村立高校「北海道おといねっぴ美術工芸高等学校」があります。全国各地から生徒が集まり、創造性豊かに創作活動を行っています。村立高校である強みを活かし、高校魅力化を通じた高校振興、地域振興を図っています。

基幹産業の農業産出額は1億5千万円

村の基幹産業は「農業」。そばやフルーツトマト、ホワイトアスパラなどの野菜の作付や乳用牛などが飼育され、農業産出額(推計)は1億5千万円です。

第三次産業の就業人口は約7割

令和2(2020)年の産業別就業人口は、第一次産業は2割弱、第二次産業は1割、第三次産業は約7割です。第一次産業は減少傾向にありましたが、平成22(2010)年から微増し、第二次産業は減少傾向、第三次産業は増加しています。

観光客は約5万人

村を訪れる観光客はおおよそ5万人で、日帰り客が約9割を占めています。7月、8月、12月の観光客が多く、夏はキャンプ、冬はクロスカントリースキー大会による来訪がみられます。

日本を取り巻く社会経済情勢

近年、国や本村を取り巻く情勢は急激に変化しており、これからの村づくりにおいて、的確かつ柔軟に対応すべき代表的な時代背景は次のとおりです。

1 人口が減少し、少子高齢化が進行

日本の総人口は平成20(2008)年をピークに減少しており、令和35(2053)年の人口は1億人を下回ると見込まれています。生産年齢人口は平成7(1995)年をピークに減少し、総人口に占める年少人口の割合は世界的にみても低い水準となっています。令和18(2036)年には約3人に1人が高齢者になると推計されています。人口減少・少子高齢化の進行はさまざまな影響が懸念されており、地方創生など全国的な取り組みが進められています。

本村においても、村の特性を活かした人口減少に対する対策をはじめ、人口の少なさに左右されない、小さな村ならではの村づくりの推進がより一層求められています。

2 価値観やライフスタイルの多様化

近年、経済のグローバル化や新型コロナウイルス感染症などの影響により、社会経済情勢は大きく変化しました。人々の価値観やライフスタイルが多様化するとともに、物質的な豊かさだけでなく心の豊かさを重視する方向へと変化しています。

働き方においては、終身雇用や年功序列型の賃金体系は形骸化しつつあります。どこで、どのような働き方をするのかという選択肢が広がるとともに、より多くの人々が社会で活躍できるようになりました。

一人ひとりの考えやニーズに合わせて暮らしや働き方などを選ぶことができる時代においては、多様な価値観や個性を尊重し、それぞれの人にあった暮らしを実現することのできる村づくりが求められます。

3 都市部から地方への人の流れの創出

日本全体の人口が減っていることに加え、都市部へ若者が流出することによって、地方の人口減少に拍車がかかっています。国では、地方に新たな仕事や雇用を生み出したり、安心して結婚・妊娠・出産・育児ができる環境をつくることで、暮らし続けたい、移住したい、地域づくりを推進し、全国各地でもさまざまな施策が取り組まれています。また一方で、交流人口や関係人口の創出に向けた取り組みが行われており、直接的な移住定住ではない、地方と都市との人の流れ、つながりづくりが取り組まれています。

本村においては、北海道で一番人口の少ない現状を人口数だけでとらえるのではなく、人口に対する世代割合からも見える地域特性を活かすとともに、地域の資源と人材を活かした中長期的な取り組みが求められます。

4 ICT^{※2}などをはじめとした情報化、グローバル化の進展

日本は、世界に類を見ない超高齢社会^{※3}を迎えており、高齢者の増加によって、医療や福祉にかかる費用、インフラの老朽化や高齢化による公共交通の需要が高まると予測されています。人口減少による財源への影響も増すことから、よりコンパクトな村づくりの推進、事業の優先度の選択と集中が必要となってくるものと想定されます。

一方で、IoT^{※4}やAI^{※5}、ビッグデータ^{※6}など情報通信技術が急速に進展・普及しており、産業、医療、教育などさまざまな分野や生活のあらゆる場面において活用が期待されています。

村民が豊かな暮らしを送り続けるためには、さまざまな技術を取り入れながら、行政運営の効率化と生活の利便性の向上を図っていく必要があります。

※2 ICT ——— 「Information and Communication Technology」の略称で、「情報通信技術」と訳される。ネットワークを活用して情報や知識を共有することも含めた幅広い言葉。

※3 超高齢社会 — 65歳以上の人口の割合が全人口の21%を占めている社会を指す。

※4 IoT ——— 「Internet of Things」の略称で「モノのインターネット」と呼ばれている。インターネットに接続されていなかったモノが、ネットワークを通じてサーバーやクラウドと接続して相互に情報交換をする仕組みのこと。

※5 AI ——— 人工知能(Artificial Intelligence)の略で、コンピュータがデータを分析し、推論や判断、最適化提案、課題定義や解決、学習などを行う、人間の知的能力を模倣する技術のこと。

※6 ビッグデータ — 人間では全体を把握することが難しい巨大なデータ群のこと。

村の将来像

森とともに 一人ひとりの匠が活躍する村

第6期音威子府村総合計画策定にあたり、本村の地域特性、取り巻く社会経済情勢、アンケートやワークショップでの検討を踏まえ、本計画における大切なキーワードを「人」としました。

急激に変化する時代の中で、経済は成長期から成熟期へ移行し、日本の人口は減少へと転じています。本村においても、地域特性を活かした、人口や経済の縮小を抑制しながら人々の暮らしを豊かにする村づくりが求められています。

そこで、目指すべき本村の「未来」を実現するために、将来像として「森とともに一人ひとりの匠が活躍する村」を掲げました。

本村は、これまで「森と匠」をキーワードに村づくりを進めてきており、この想いは村民にも深く浸透しています。これまで積み重ねた本村の独自性や個性を根幹に維持しながら、小さな村ならではの村づくりを進めていきます。

そのためには、「人」が重要です。

村民一人ひとりが自分の好きなこと、得意なことで生き生きと暮らし、豊かな生活を送ることが大切だと考え、「一人ひとりの匠が活躍する」と表現しています。

総合計画は、村民をはじめ本村に関係するすべての人々を対象とした「村づくりの指針」となります。その前提を踏まえ、本村に関わる人々と協働してつくりあげてきました。

小さくても魅力ある村、生き生きと暮らし続けることのできる村に向けて、村民一人ひとりが一歩踏み出すことを支援します。そして村民同士が互いに支え合い、村民と行政及び各関係機関が協働して村づくりを進めていきます。



将来像の実現に向けた3つの目標

村の将来像の実現に向けて、3つの基本目標を整理しました。

●基本目標1「森とひとが共生する」

この先も、音威子府村の豊かな自然を次世代へ受け継いでいくために、自然と人々が共生する村づくりを目指します。

本村ならではの森の恵みを活かした暮らしを守るために、環境負荷を軽減するライフスタイルの定着や再生可能エネルギーの導入、省エネルギーの取り組みの推進などを検討します。

また、村民が安心して住み続けるために、暮らしを支える生活基盤の整備や安心・安全な生活を守る取り組みの推進などに努めていきます。

●基本目標2「森に学びひとが未来を創る」

音威子府村の農業、林業、商工業、観光産業の振興を図ることで、本村の経済活動の活性化を目指します。

村内外の事業者や団体、人材と連携し、各産業の付加価値向上や新産業の創出、人材育成、市場開拓など多様な施策を展開します。

また、多様化するライフスタイルや価値観に合わせて、誰もが自分らしい生活・働き方が実現できるような環境整備に努めていきます。

●基本目標3「森の大切さを知るひとが育つ」

村民の健やかで安心な生活を支える保健・医療、地域福祉などが充実した村づくりを目指します。

本村で育つ子どもたちの教育環境の充実や、北海道おといねっぶ美術工芸高等学校を活かした村づくりを推進します。

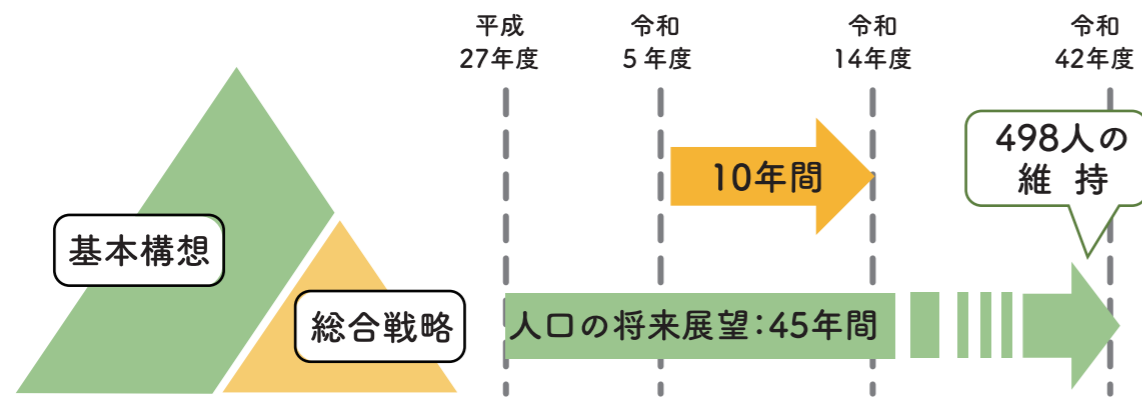
また、保健・医療・福祉サービスの充実に加え、村民一人ひとりが助け合う健康福祉のあり方を考え、だれもが生き生きと暮らせるような施策の展開を進めます。

さらに、村づくりへの参画機会の拡充や協働で取り組む仕組みの構築を進めるとともに、より効率的で健全な行財政運営、公共施設の適切な管理に努めていきます。

2032年に 人口685人を目指す

全国的に少子高齢化や人口減少が急速に進む中、小さくても魅力ある村として在り続けるためには人口の維持が必要です。

第6期音威子府村総合計画の目標年次である令和14(2032)年の目標人口は、「音威子府村人口ビジョン^{※7}」及び「音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略^{※8}」の考えに基づき、685人とします。



なぜ「令和14(2032)年に685人」?

令和5(2023)年1月末日現在、本村の人口は660人です。

総合戦略では、将来人口の推計に基づいて、実現可能と考えられる目標人口を、「令和42(2060)年に人口498人」と設定しています。そして、この目標人口から逆算した令和14(2032)年度の目標人口は685人となっています。

同戦略で示された目標人口685人の維持に向けて、今後の施策努力をより一層推進してきます。

※7 音威子府村人口ビジョン

「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、人口減少に伴う地域課題に対応するために、村の人口動向の特性と課題を把握し、目標とする将来人口と将来展望を提示している。

※8 音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略

人口減少に伴う地域課題に対応するために国・道の総合戦略を勘案しながら、人口ビジョンにおいて設定された将来人口規模を達成するために必要な政策分野ごとの目標を示している。

将来像
future

森とともに一人ひとりの匠が活躍する村

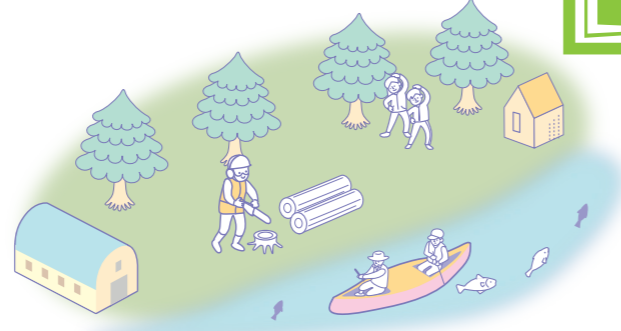
目標人口

685名

基本目標

森とひとが共生する

P30 ~35



基本分野:環境・防災

自然環境、再生可能エネルギー、
防災・防犯、社会インフラ

森に学びひとが 未来を創る

P36 ~39



基本分野:経済

産業振興、雇用環境

森の大切さを知る ひとが育つ

P40 ~47



基本分野:人・暮らし

教育・人材育成、文化振興、
交流、子育て、
福祉・医療、協働、行財政

施策の柱

森に囲まれた環境にやさしい村

- 1)自然環境の維持・推進
- 2)循環型社会の形成

P30-31

自然と調和した住み良い村

- 1)自然と調和した村づくり
- 2)暮らしを支える生活基盤の整備

P32-33

村民の命と財産を守る安全な村

- 1)地域安全の確保

P34-35

村民の活力があふれる村

- 1)農林業・商工業の振興
- 2)地場産品の振興
- 3)観光レクリエーションの振興

P36-37

自分らしい働き方と生き方を送れる村

- 1)時代に合わせたライフスタイルの実現
- 2)雇用機会の充実
- 3)移住・定住の促進

P38-39

村への愛着と生きる力を育む村

- 1)教育の充実
- 2)おと高を通じた地域振興
- 3)交流活動の促進
- 4)スポーツ・芸術文化振興

P40-41

互いに思いやり安心で生き活きと暮らせる村

- 1)保健・医療サービスの整備
- 2)子育て環境の充実
- 3)福祉の推進
- 4)地域福祉の推進

P42-43

ともに支え合い関わり合う村

- 1)村民協働の仕組みづくり
- 2)効率的な行政運営
- 3)行政サービスの充実
- 4)健全な財政運営
- 5)公共施設等の総合管理
- 6)男女共同参画社会の推進

P44-47

主な施策の内容

森林や河川の維持・整備

再生可能エネルギー導入や省エネルギーの推進
4R(ごみの発生回避・減量化・再利用・再生利用)の促進 など

道路や河川の維持管理、安全確保

山林保全による景観形成
宗谷本線の活性化、拠点駅としての機能充実
音威子府バイパス開通に伴う関連施策の推進 など

救急体制の充実

交通安全意識の普及啓発、関係機関と連携した安全確保の推進
防犯活動の推進 など

農林業・商工業の後継者確保・育成、起業・継承・創業支援・新規就

労受け入れ態勢の整備と推進
工芸品や農産物の商品化・販売促進
着地型体験観光の造成 など

新たな働き方の導入支援および環境整備

おと高卒業生や若者の雇用の場の創出
移住・定住に向けた住居の確保
多様なライフスタイルに合わせた移住交流の推進 など

新たな技術を取り入れた教育の推進

おと高生参加による個性的で魅力ある村づくり
村民同士による多世代交流の促進の場づくり
スポーツを楽しめる環境・機会の整備、交流促進 など

心身の健康維持・相談支援、食育等の推進

切れ目のない子育て支援の推進
高齢の方・障がいのある方が活躍できる場づくり・機会づくり
地域コミュニティ活動やボランティア活動の推進 など

村民一人二役の活躍の場づくり

村民協働の推進
組織体制の充実・強化
新たな技術を活用した行政サービスや生活支援検討
財政運営の健全化
男女共同参画意識の啓発 など

基本目標 1

森とひとが共生する

(1) 森に囲まれた環境にやさしい村

本村の地域資源である豊かな自然環境と共生するため、森林や河川などを守り続けていくことを推進します。加えて、自然にも人にもやさしいライフスタイルのあり方を模索します。また、村内に暮らす人が自分たちの使うエネルギーを意識し、再生可能エネルギーの導入などによるエネルギー転換や省エネルギーの取り組みを推進していきます。

1) 自然環境の維持・推進

- 森林や河川などの自然環境の維持・整備などによる保全を図ります。
- 自然環境との共生を目指すために再生可能エネルギーや省エネルギーの取り組みを推進し、環境にやさしい暮らしや事業活動の促進を支援します。
- 村民・事業者・行政が連携し、再生可能エネルギーへの転換や省エネルギーの取り組みを進めていきます。

- <主な施策>
- ・森林や河川の維持・整備
 - ・再生可能エネルギー導入や省エネルギーの推進
 - ・ゼロカーボン政策の推進

村民の意見

できる範囲で再生可能エネルギーについても導入していきたい

森林や川は大切な資源！

2) 循環型社会の形成

- できるだけごみを出さないようにし、自分で出したごみに責任を持つよう村民の意識醸成を図ります。家庭や事業者から出されるごみを減らすため、村内で再利用できる取り組みを進めます。
- 4Rの促進や再生可能資源の活用促進、廃棄物の適正処理を推進し、循環型社会の形成を支援します。

<主な施策>

- ・4R(ごみの発生回避・減量化・再利用・再生利用)の促進
- ・廃棄物の適正処理の推進
- ・再生可能資源の活用促進

村民の意見

自然を大切に村づくりをしていく

ごみ問題を解決していきたい

村民にエコバッグを配布！

施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標 1

森とひとが共生する

(2) 自然と調和した住み良い村

本村では、豊かな自然と調和した生活が送られていることから、今後も村民・団体・事業者・行政が連携しながら、環境美化や景観の維持及び形成を図っていきます。

また、村民が安心して快適な暮らしを送ることができるよう、生活基盤や環境の維持と整備を推進します。

1) 自然と調和した村づくり

- 先人から受け継がれ、維持管理されてきた森林や河川、道路、豊かな景観を後世に残していくための取り組みを進めます。

- <主な施策>**
- ・道路や河川の維持管理、安全確保
 - ・山林保全による景観形成
 - ・廃屋撤去等による環境美化の推進

村民の意見

農地と一体となった景観が村の魅力！

五感が研ぎ澄まされる
ところがいい

移住して
きた人が
安心して
暮らせる
村にしたい



2) 暮らしを支える生活基盤の整備

- 道路、上下水道、除排雪対策など、日々の暮らしに必要な生活基盤を整し、暮らしの快適性を実現してきました。今後も村民が安心して住み続けられるよう、社会資本の適切な維持・管理と整備に努めます。
- 交通インフラを維持・管理しながら、生活の安全性や利便性を高めていきます。

<主な施策>

- ・水道水の安定供給、下水処理、施設維持
- ・住宅改修・持家住宅奨励制度の利用促進
- ・公営住宅の適正な修繕
- ・環境に配慮した、快適な住環境の整備
- ・除排雪対策の整備、強化
- ・宗谷本線の活性化、拠点駅としての機能充実
- ・音威子府バイパス開通に伴う関連施策の推進
- ・広域交通(鉄道・道路)ネットワークの確立

村民の意見

環境が良く
住みやすい

他市町村との
アクセスがいい

鉄道が便利！

村民の生活基盤が
しっかりしている
といい



施策の柱に関連するSDGsのゴール



森とひとが共生する

(3) 村民の命と財産を守る安全な村

本村は豊かな自然に囲まれています。災害と隣り合わせの環境でもあります。村民の安心・安全な暮らしを守るため、災害対策や救急体制などの充実を図ります。

また、普段から村民同士が声をかけ合うことで、災害や犯罪が起きた際にも、村民と行政、各関係機関が連携をとることができます。そのためにも村民の安心・安全に対する意識の醸成を図ります。また、各関係機関との連携を強化し、地域安全の確保を推進していきます。

1) 地域安全の確保

- 地域における防災に対する意識の向上と防災及び救急体制の充実を図ります。
- 地域の安心・安全に関わる情報発信の基盤を充実し、環境の改善や防犯意識の醸成につなげます。
- 安心・安全な村づくりを進めるために、防犯意識の高い地域づくりを目指し、地域に根ざした防犯活動を推進します。

< 主な施策 >

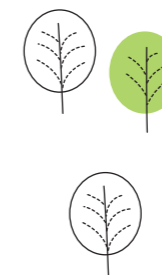
- ・ 洪水・地震・豪雪・山地災害等に備えた防災体制の整備及び防災意識の普及啓発
- ・ 交通安全意識の普及啓発、関係機関と連携した安全確保の推進
- ・ 消防団員の定数確保、消防車両の更新
- ・ 住環境を損なう障害物等の撤去促進
- ・ 救急体制の充実
- ・ 防犯活動の推進

村民の意見



村民同士のつながりを感じる

避難経路の共有や情報発信を充実するといひ



施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標 2

森に学びひとが未来を創る

(1) 村民の活力があふれる村

農林業や商工業を将来にわたって継承・発展させていくために、農林業及び商工業の振興を図ります。また、特色ある地場産品の開発やブランド化などにより、産業の活性化を進めます。

さらに、森林、河川、雪といった自然環境を活かしたツアーの造成やガイドの育成など、着地型体験観光を促進し、交流人口の増加に努めます。

1) 農林業・商工業の振興

- 農林業など第一次産業の振興のために、基盤整備に加え、新しい担い手の確保及び農畜産物などの活用促進を図ります。
- 商工業の活性化に向けて、後継者の確保や創業支援などの充実を図ります。

<主な施策>

- ・森林資源・天然林等の多面的活用
- ・新規作物導入の促進
- ・土づくり及び土地基盤整備の推進
- ・有害鳥獣対策の強化推進
- ・農林業・商工業の後継者確保・育成、起業・継承・創業支援・新規就労受け入れ態勢の整備と推進

村民の意見

後継者の育成が大切である

景色の良さと農業を大切にしたい

商店が増えると生活がより充実する

2) 地場産品の振興

- 村内の農畜産物を村内外で広く親しんでもらえるように、特産品開発支援などブランド化の推進に努めます。
- 木工品など商品のマーケティング戦略を進め、多くの人に商品の価値を訴求するためのPR、流通、販売の仕組みの充実を図ります。

- #### <主な施策>
- ・第一次産業のブランド化、6次産業化支援
 - ・工芸品や農産品の商品化・販売促進
 - ・農商工連携による雇用の場創出

特産品の数を増やせるといい

芸術に関連した特産品がたくさんあるといい

村民の意見

3) 観光レクリエーションの振興

- 本村が誇る歴史的資源や文化資源など、あらゆる地域資源を活用して、着地型体験観光の展開を図ります。
- 観光振興に関わる人材の育成や環境づくりを進めます。

- #### <主な施策>
- ・既存の観光施設の充実・整備等
 - ・着地型体験観光の造成
 - ・観光における住民活躍の場の創出
 - ・村及び観光スポット等のPR
 - ・音威子府バイパスの開通に関連する地域振興の推進



村民の意見

村民全員がガイドとなるのが理想である

資源を活かしながら体験ツアーを行う

村の魅力を再発見し情報発信する

施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標2

森に学びひとが未来を創る

(2) 自分らしい働き方と生き方を送れる村

本村に移住・定住してもらうには、雇用機会が満たされていることが大切です。また、各個人の生き方や働き方に合ったライフスタイルの実現を支援することが必要です。

そのため、村内での就業機会や雇用創出、働く環境づくりの充実に努めます。また、大きく変わる価値観に合わせて、多種多様な生き方や一人二役が実現できるような環境整備を図ります。

1) 時代に合わせたライフスタイルの実現

- リモートワークやワーケーションなど、時代に合わせた新しいライフスタイルの実現に向けて、環境整備や支援体制の充実に努めます。

<主な施策>

- ・新たな働き方の導入支援および環境整備
- ・産学官金の連携により副業・兼業等人材活用できる体制づくり
- ・ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた環境づくり推進

村民の意見

若い世代や
チャレンジしたい人を
支援することが大切!

リモート
ワークが
できる場を
つくり人口を
増やしたい

空き家が増えて
いるので
活用できるといい

仕事以外で
活動できる
環境づくりや
価値づくりが
大切

2) 雇用機会の充実

- 本村の産業振興を支えるため、地元企業等への雇用促進を図ります。また、おと高卒業生や若い世代の雇用の場の創出など、雇用環境の充実に努めます。
- 本村の地域資源や自然環境などを活かして、企業誘致に努めます。

<主な施策>

- ・地元企業等への就業者雇用の促進
- ・おと高卒業生や若者の雇用の場の創出
- ・企業誘致の推進

村民の意見

広い立地を
活かして
IT企業など
誘致したい

3) 移住・定住の促進

- 村民一人ひとりが自分らしいライフスタイルを送ることができるよう環境を整備するとともに、村外からの移住・定住を促進するため、相談窓口の充実に努めます。
- 移住・定住者を受け入れることができるよう、体験移住の促進や住居の確保に努めます。

<主な施策>

- ・移住相談窓口の充実
- ・移住・定住に向けた住居の確保
- ・空き家や体験住宅等を活用した移住の促進
- ・移住・就労体験と連携した住居等のリノベーション
- ・多様なライフスタイルに合わせた移住交流の推進

村民の意見

都会からの
受け入れを
増やしたい

クリエイター
の移住促進を
したい

施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標3

森の大切さを知るひとが育つ

(1) 村への愛着と生きる力を育む村

本村の自然や歴史、多様な文化の素晴らしさを村民が実感し、日常を楽しんでいることが村の望ましいあり方です。そして、小さくても魅力的な村を村民同士が力を合わせて作りあげていくことも大切です。

そのためには、村内にあるさまざまな地域資源の価値を、村民一人ひとりが理解し・守り・活かすことが求められます。

また、本村の大きな特色であるおと高を活かした村づくりを推進していきます。

1) 教育の充実

- 子どもたちが、個性と創造性、自主性を身につけられる教育の充実を図ります。また、先端技術等の導入を図り、地域的差異によらない学びの環境づくりに努めます。
- 村民が学ぶ楽しさを実感できるように、村の地域資源を活かした教育環境づくりを推進します。
- 本村の特色であるおと高の、教育環境の充実に努めます。

- <主な施策>**
- ・新たな技術を取り入れた教育の推進
 - ・村の資源を活かした教育の推進
 - ・生涯学習に関わる機会や施設環境の整備
 - ・村民同士が学び合うふるさと教育の推進
 - ・おと高の振興
 - ・村の振興の要となる高等学校の機能強化



村民の意見

村ならではの教育を提供する

学校以外のコミュニティがあるといい

ICTを活用した教育を推進する

将来戻って来たいと思える村でいたい

2) おと高を通じた地域振興

- 本村の宝であるおと高の生徒が地域で活躍できる仕組みづくりを進めます。また、若い世代が長く村づくりに参画できる場や機会の創出を図ります。
- おと高生の作品などを発表できる機会など、おと高生と村民が交流できる場の創出に努めます。

- <主な施策>**
- ・多様な人材活躍の推進
 - ・おと高卒業生をはじめとした関係人口の創出
 - ・おと高生参加による個性的で魅力ある村づくり
 - ・おと高生の作品展示等村民との交流促進

おと高生と交流できる場が欲しい

おと高生が活躍する役割があるといい

村民の意見

3) 交流活動の促進

- さまざまな歴史文化を学び、広い視野を持つ人材が社会で活躍することができるように、交流の環境づくりに努めます。

- <主な施策>**
- ・村民同士による多世代交流の促進の場づくり
 - ・関係人口創出を通じた地域内外の交流促進

村民の意見

子どもから大人までだれもが集える場をつくる

4) スポーツ・芸術文化振興

- 村民が健康で楽しく暮らし続けられるように、スポーツを楽しめる環境づくりに努めます。
- 村内に残る伝統行事、芸術文化を次世代に引き継いでいくために、保存・伝承に努めます。
- 村民の芸術文化活動を発表できる場や、芸術文化に参加できる場の創出を支援します。

<主な施策>

- ・スポーツを楽しめる環境・機会の整備、交流促進
- ・歴史・芸術文化等地域資源の継承と活用

村民の意見

砂澤ビッキの作品が見られるエコミュージアムおさしまセンターを大事にしたい

施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標3

森の大切さを知るひとが育つ

(2) 互いに思いやり安心して生き活きと暮らせる村

だれもが安心して充実した生活を送ることができる村にしていくために、一人ひとりが健康に暮らし続けられるための取り組みを充実させるとともに、さまざまな境遇を持つ他者への理解を深め、支え合う社会づくりを目指します。

また、安心して子育てができる環境づくりと、児童の健全育成を進めるための支援体制を図ります。

そして、すべての村民が地域社会の一員として、生きがいをもって暮らしを営むための仕組みづくりに努めます。

1) 保健・医療サービスの整備

- 普段から心身の健康を気にかかけ、健康づくりに励む村民を増やすために、健康維持・増進に向けた取り組みの促進や保健・医療環境の充実を図ります。
- 病気を未然に防ぐために、ライフステージに応じた検診や予防接種などの充実を図ります。

<主な施策>

- ・心身の健康維持・相談支援、食育等の推進
- ・各種検診(特定検診・がん検診等)事業の充実
- ・村民健康相談事業の拡充
- ・音威子府村立診療所の充実
- ・サテライトでの複数の診療科目診察の継続、医療機器の更新
- ・感染症まん延防止対策の継続的対応

村民の意見

歳を重ねても生涯現役でいられるといい

2) 子育て環境の充実

- 安心して子どもを産み育てられるよう、妊娠、出産、子育てに至る一連の流れを支援する体制や助成制度の充実を進めます。
- 村内外との連携も図りながら、地域みんなで子どもを育てる環境づくりを推進します。

<主な施策>

- ・切れ目のない子育て支援の推進
- ・地域による子育て家庭の支援
- ・保育サービス・幼児教育の充実

村民の意見

子どもが健やかに育つ環境づくりをしてほしい

3) 福祉の推進

- 年齢や性別、障がいの有無に関わらず、すべての村民が安心して生活することができる環境づくりを推進します。
- 各関係機関との連携やさまざまな助成制度の充実を図ります。

<主な施策>

- ・高齢の方・障がいのある方が活躍できる場づくり・機会づくり
- ・保健福祉センターを中心とした地域包括ケアシステムの強化
- ・地域複合施設「ときわ」をはじめとする村独自サービスの拡充と資源開発
- ・社会福祉協議会と福祉事業の連携強化

村民の意見

高齢者など含め時間にゆとりがある方も活躍できる場があるといい

4) 地域福祉の推進

- だれもが地域で安心して暮らせるように、村民・関係機関・行政の連携による「支え合う関係性」の構築に努めます。
- 地域の福祉交流拠点における支援体制を充実させ、地域コミュニティを基盤とした福祉ネットワーク活動を支援します。
- 地域福祉を担う団体の活動を支援し、村民自らの力で福祉活動を進め、支え合う地域づくりに努めます。

<主な施策>

- ・世代、分野を超えた「地域共生社会」の実現
- ・地域コミュニティ活動やボランティア活動の推進
- ・地域複合施設「ときわ」の、福祉交流拠点としての積極的な活用
- ・総合相談支援体制の充実

手厚く助けてくれる村民のあたたかさがずっと残るといい

村民の意見

施策の柱に関連するSDGsのゴール



基本目標3

森の大切さを知るひとが育つ

(3) ともに支え合い関わり合う村

より良い村づくりを進めていくためには、村民一人ひとりと行政が力をあわせることが不可欠です。村民と事業者、行政が協働し、今後の村づくりを進めていきます。

そのために、協働の仕組みづくりの推進、村民に寄り添った行政運営や施設管理のほか、多様な社会参画の機会づくりなどを図ります。

1) 村民協働の仕組みづくり

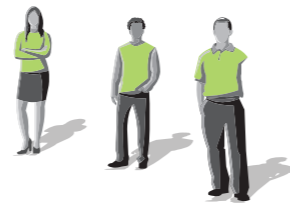
- 村民と行政が連携し支え合いながら村づくりを担っていく仕組みや環境づくりを推進します。

- <主な施策>
- ・村民一人二役の活躍の場づくり
 - ・地域の枠を超えた支え合う仕組みづくり
 - ・村民協働の推進
 - ・人づくり・協働活動に関する支援の充実
 - ・村政情報公開の推進

村民の意見

一人ひとりが生き生きと活躍する

村民みんなが得意なことを活かして先生になる



2) 効率的な行政運営

- 村民に寄り添った行政運営を図るため、組織体制の充実や適切な事務執行など効率的・効果的に各事業を推進します。

- <主な施策>
- ・組織体制の充実・強化
 - ・適切な事務執行
 - ・広域行政の促進(定住自立圏・公共交通等)

3) 行政サービスの充実

- インターネットなどの情報通信技術を有効に活用して、村民のニーズや時代にあわせた情報提供や生活支援などの行政サービスの充実に努めます。

- <主な施策>
- ・ホームページ、広報紙の内容の充実
 - ・SNS等を活用した村づくり情報の広報
 - ・新たな技術を活用した行政サービスや生活支援検討

村民の意見

SNSで村の情報を積極的に発信する!

ICTを活用して便利な行政サービスを提供してほしい

4) 健全な財政運営

- 国が法律で定めた自治体の財政健全度を示す指標、財政健全化判断基準を満たすよう、行財政の健全化を進めます。
- 財政状況についての情報をより積極的に村民に伝え、本村の財政状況の周知に努めます。

- <主な施策>
- ・財政運営の健全化
 - ・事業の集約、再編等による効率的な施策の展開

森の大切さを知るひとが育つ

5) 公共施設等の総合管理

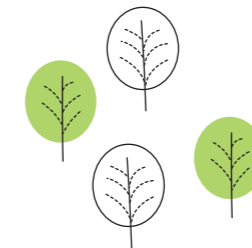
- 老朽化した公共施設の適切な維持を図り、村民の学びの場、交流の拠点など多様な活用ができるよう、総合的な管理に努めます。

<主な施策> ・公共施設等の維持管理

村民の意見

観光客向けに環境を整備してほしい

公共施設を利活用し
高校生の作品展や
発表の場にする



6) 男女共同参画社会の推進

- あらゆる分野において、村民一人ひとりが意欲に応じて個性と能力を発揮できる村づくりを進めます。
- 働く環境、性別などに関わらず、だれもが一人の人間として社会で活躍することができるように、制度の充実や環境づくりの推進、意識啓発などを図ります。

<主な施策> ・男女共同参画意識の啓発 ・男女共同参画・女性活躍の社会環境づくり ・審議会・委員会等への女性の登用

村民の意見

働きながら子育てしやすく、
生活が充実する環境が整うと
いい

施策の柱に関連するSDGsのゴール

